

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	保育所等訪問支援 からふる		
○保護者評価実施期間	R7年4月1日		R7年5月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○従業者評価実施期間	R7年4月1日		R7年5月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○訪問先施設評価実施期間	R7年4月1日		R7年5月10日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年5月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・同事業所の放課後等デイサービスをご利用のお子様、保育所等訪問支援をご利用している為、様々な視点からの情報がありアプローチ出来る環境を整えている。	・訪問時間の前後の様子を先生と情報交換を行うように心がけている。 ・その他の時間や、学校連絡帳を活用しながら情報共有を行う手段も一部取り入れている。	・当日の様子は、電話やLINEでお伝えし細かい詳細は文章にて報告を行うようにしている。 ・保護者の方と訪問先の方の面談がある場合は、同席して共有会議等の時間を設けて頂けるように連携を行っている。 ・研修参加を増やし、変化に合わせる事が出来るように学ぶ時間を設けていきたい。
2	・看護職員在籍の為、医療関係者との連携や情報提供書等を用いた共有を行うことが出来ている。	・RH受診日に同行したり、発達外来受診日に同行を行うことで、臨床心理士の方と情報共有や考察を行うことも出来ている。また、より理解したうえで支援へ取り組むことが出来る環境を作ることが出来ている。	・必要な情報の提供を行い、様々な視点で支援アプローチを用いることが出来るように取り組んでいる。 ・最先端の医療知識を追い、治療や療育、支援に関わる全てにおいて学べる環境を作り、情報共有や支援に繋げていく。
3	・長年の福祉経験者、教員、保育士などの免許を持つ職員が在籍していることで、子どもたちの変化に少しでも早く対応できるように連携を図ることが出来ている。	・経験を活かし、支援方法など常に情報交換や共有を行う関係性が出来ている為、他の関係機関とも直ぐに連携を図ることが出来るように体制を整えている。	・いろんな情報収集を行い、研修等へ参加し支援の質を上げることが出来るように学ぶ時間を設けていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・訪問支援担当以外の職員も同様に支援が出来るように、共通理解を行い学びに繋がる取り組みが必要。	・兼務しながらの訪問支援を行っている為、効率的に職員への研修機会や勉強会など、スキルを上げる取り組みが少なかった。	・事業所内勉強会、外部研修等への参加を増やし職員のスキルアップに繋げる。
2	・教育現場と療育での温度差を埋めることが難しい為、自治体を交えた発信が出来る機会を増やしていく取り組みが必要。	・連携会議で共通理解を確保する時間をもっと必要。	・訪問先の福祉サービスに対する情報の理解度を確認し、いろんな視点からのアプローチがいかに大切であるか理解して頂けるよう、もっと会議等での発信を強化し、理解を得ることが出来るよう拡げる。
3			